

平成20年度当初予算 重点的な取組別概要

< 重点事業 >

元気6：東紀州地域の観光や産業の振興と地域づくりによる活性化

(主担当部：政策部東紀州対策局)

< 重点事業の目標 >

東紀州地域が一体となって観光や産業の振興と地域づくりなどを総合的に推進していく「東紀州観光まちづくり公社」を設立するなど、熊野古道センターや平成21年オープン予定の紀南中核的交流施設などの機能を最大限に生かしつつ、東紀州地域の活性化に向けた取組を進めます。

さらには、地域の基幹産業であるかんきつ農業、水産業をはじめとする一次産業の活性化に向けて、次代の担い手育成や生産基盤の整備、高品質・高付加価値化をはかるための試験研究などに取り組みます。

< 構成事業(担当部) >

- (1) 東紀州観光まちづくり推進事業(政策部東紀州対策局)
- (2) 熊野古道センター運営事業(政策部東紀州対策局)
- (3) 中核的交流施設整備事業(政策部東紀州対策局)
- (4) 県営中山間地域総合整備事業(農水商工部)
- (5) 紀南版元気なみかんの里創生事業(農水商工部)
- (6) 揮発油税財源身替農道整備事業(農水商工部)
- (7) 畑地帯総合農地整備事業(農水商工部)
- (8) 東紀州地域の水産業活性化対策事業(農水商工部)
- (9) 養殖基地機能向上事業(農水商工部)
- (10) 熊野灘海域浮魚礁設置事業(農水商工部)
- (11) 農林水産物主産品高品質化技術開発事業(政策部科学技術振興センター)

< 重点事業の事業費 >

(単位：千円)

H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(892,436)	(1,428,000)	1,474,000	1,449,000
913,436	1,095,970		

H19年度は現計予算額、H20年度は当初予算要求額

H19およびH20年度の上段括弧書き、H21年度、H22年度は第二次戦略計画の記載額

< 重点事業の数値目標 >

目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
東紀州地域における 推定観光消費総額指数	目標値	-	103	105	108	110
	実績値	100				

東紀州地域の産業振興の度合いを測るため、そのけん引産業となる観光産業の進展状況を表すものとして、東紀州地域への観光入込客数と一人あたりの平均観光消費額の積を「推定観光消費総額」と定義づけ、平成18年の当該数値を100として、その増減について指数化したもの。

< 構成事業の目標 >

目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
(1)東紀州観光まちづくり公社がまちづくりなどの取組に対し、参画した件数（累計）	目標値	-	3 件	4 件	5 件	5 件
	実績値	2 件				
(2)来館者数	目標値	-	84 千人	86 千人	88 千人	89 千人
	実績値	-				
(3)施設利用者数	目標値	-	-	-	138 千人	162 千人
	実績値	-	-	-		
(4)整備計画策定および整備地区数	目標値	-	1 地区	2 地区	2 地区	2 地区
	実績値	-				
(5)南紀みかんの三重ブランド規格構成率	目標値	-	24%	27%	33%	37%
	実績値	18%				
(6)新規供用延長	目標値	-	-	-	-	1.3km
	実績値	-				
(7)畑地かんがい面積（累計）	目標値	-	-	-	10ha	26ha
	実績値	-				
(8)事業実施地区数	目標値	-	6 地区	6 地区	6 地区	6 地区
	実績値	-				
(9)養殖施設機能向上率	目標値	-	78%	83%	92%	100%
	実績値	74%				
(10)浮魚礁設置数（累計）	目標値	-	2 基	3 基	4 基	8 基
	実績値	1 基				
(11)技術開発件数（累計）	目標値	-	2 件	4 件	6 件	13 件
	実績値	-				

< 進捗状況（現状と課題） >

- ・「東紀州観光まちづくり公社」により、地域資源を生かした体験プログラム等の観光商品づくりや地域の観光関係事業者向けのセミナー等を実施するとともに、事業者へ国、県、市町の施策の情報提供やパートナー企業等を仲介しています。また、地域の事業者の実情に応じた新たな商品開発や販路開拓を支援していく必要があります。
- ・熊野古道センターは、講演会や企画展および体験学習など積極的な取組により、来館者数は目標を大幅に上回る状況ですが、さらに、内容の充実をはかっていくとともに市町や企業等と連携し集客交流拠点としての機能を高めていくことが必要です。
- ・紀南中核的交流施設は、補助事業者において施設整備が着実に進められており、施設オープンに向け事業者と地域とが連携しながら取り組んでいく必要があります。
- ・中山間地域の農業・農村の活性化に向け、総合的な整備計画の作成などを推進しています。
- ・今年度導入されたかんきつの高品質選果システムの評価と検証を行いながら優良品種の導入等を進めるとともに、農道やかんがい施設などの生産基盤整備を進めます。また、新規就農希望者へのサポート体制の充実をはかり、確実に就農へつなげていくことが必要です。
- ・マハタの特産品化と放流用種苗であるイサキの安定供給のための取組などを推進するとともに、養殖陸揚げ施設整備や浮魚礁の設置などを進めています。

<平成20年度の取組方向>

「東紀州観光まちづくり公社」に対し市町と連携しながら支援することにより、東紀州地域の活性化事業を推進します。

熊野古道センターを活用した集客交流の取組や、紀南中核的交流施設整備の着実な促進とともに、地域との連携をはかっていきます。

活力ある農村づくりに向け、紀北地域の中山間地域総合整備事業に着手するとともに、紀南地域の計画策定に取り組みます。

果樹産地の活性化のため優良品種の導入等を進めるとともに、新規就農者に対するサポート体制の充実などに取り組みます。

水産物の安全性および品質確保をはかるため、生産履歴の記帳など指導の充実や人と環境にやさしい生産技術の導入などに取り組みるとともに、県民への水産物の安定供給等のため、高齢者などの漁業従事者の働きやすい養殖基地づくりや熊野灘沖合への浮魚礁施設の設置を進めます。

<主な予算要求事業>

東紀州観光まちづくり推進事業【20年度予算額 22,126千円】(事業(1))

東紀州地域が一体となって観光振興、産業振興およびまちづくりを総合的に推進していく「東紀州観光まちづくり公社」に対し市町と連携しながら支援することにより、東紀州地域の活性化事業を推進します。

熊野古道センター運営事業【20年度予算額 63,777千円】(事業(2))

熊野古道センターは熊野古道の魅力を全国に情報発信するとともに、熊野古道とその周辺地域の情報収集・集積機能および地域内外の人びととの交流機能を果たすよう、多様な主体との連携をはかりながら、さまざまな取組を行います。

中核的交流施設整備事業【20年度予算額 140,381千円】(事業(3))

紀南地域の振興をはかるため、集客交流の推進に向け、補助事業者による中核的交流施設の整備に対し支援します。

県営中山間地域総合整備事業【20年度予算額 192,146千円】(事業(4))

東紀州地域における中山間地域の農業農村の活性化をはかるため、多様な主体の参画により、地域の特性に応じた生産および生活環境基盤整備を総合的に推進します。

紀南版元気なみかんの里創生事業【20年度予算額 6,045千円】(事業(5))

東紀州地域の重要な産品であるかんきつについて、その需要に応じた品質の果実を供給し、果樹産地の基盤を強化するとともに、担い手確保や地域の人、資源を生かした産業観光の推進に支援することにより紀南地域の産業全体の活性化を促進します。

東紀州地域の水産業活性化対策事業【20年度予算額 7,568千円】(事業(8))

地域特性を生かした持続的養殖の推進や経営安定に向けて、ヒロメ(海藻)の複合養殖の技術開発に取り組むとともに、マハタの特産品化や、マダイ養殖の「生産情報公表」A S」の認証取得に向けたモデル的な取組を支援します。

県営養殖基地機能向上事業【20年度予算額 250,000千円】（事業(9)の一部）

東紀州地域の主要な養殖基地において、高齢者や新規就業者等が働きやすい養殖陸揚げ施設の水産基盤整備に取り組みます。